

環境経営レポート

2023年度 （対象期間 2023年8月1日～2024年7月31日）



作成 2024年 8月 31日

(有) 永崎建設

《 目 次 》

1. 事業の概要及び対象範囲	3
1) 事業者名及び代表者	3
2) 所在地	3
3) 責任者及び事務局及び連絡担当	3
4) 事業創立年月日	3
5) 事業活動の内容	3
6) 対象範囲	3
7) 事業規模	3
8) 推進組織図	3
2. 環境経営方針	4
3. 環境経営目標	5
4. 環境経営目標の実績	5
5. 環境経営計画と取組結果、並びに評価	6
6. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	7
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	8

1. 事業の概要及び対象範囲

1) 事業者名及び代表者名

有限会社 永崎建設
代表取締役社長 永崎 健央

2) 所在地

①本社事業所 〒886-0007 宮崎県小林市真方6755番地
②資材置き場 〒886-0007 宮崎県小林市真方6879番地32

3) 環境管理責任者

EA-21責任者 : 永崎 康仁

連絡担当者 : 永崎 康仁 (EA21責任者)
TEL : 0984-22-3451
FAX : 0984-22-3426
E-mail: nagaken@poppy.ocn.ne.jp

4) 事業創立年月日

昭和 59年 1月19日 (創立から 40年)

5) 事業活動の内容

建設業 (土木工事、石工事、舗装工事、とび・土工工事、しゅんせつ工事、
水道施設工事、解体工事)

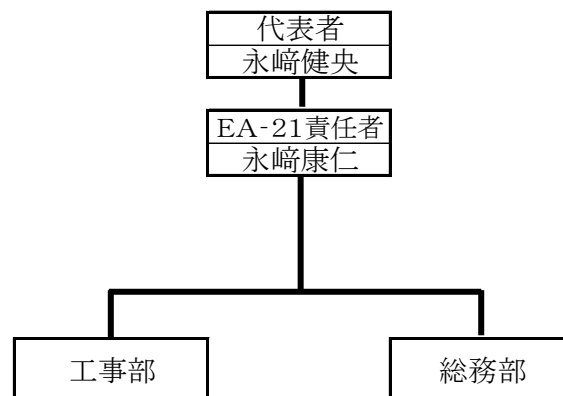
6) 対象範囲

- ・組織……本社事務所、資材置場(全組織)
- ・活動……建設業 (土木工事、石工事、舗装工事、とび・土工工事、しゅんせつ工事、
水道施設工事、解体工事)
- ・レポートの対象期間 表紙に掲載
- ・レポートの発行日 表紙に掲載

7) 事業規模

項目	2020年	2021年	2022年	2023年
従業員数	10	10	10	14
床面積(m ²)	300	300	300	300
総敷地面積(m ²)	500	500	500	500
工事件数	5	7	9	15

8) 推進組織図



2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

私達は、積極的に環境問題を認識し、優先課題と位置付けて、当社の事業活動のあらゆる分野で、自主的、積極的に環境保全に取り組み、循環型社会の構築に努め、持続可能な社会の実現に貢献致します。

- 1. 当社は、すべての事業活動を通じて、環境経営マネジメントシステムを構築し、環境経営目標・環境経営活動計画を定め、継続的な改善に努めます。**
- 2. 関連する環境の法規制を遵守するとともに、行政機関・団体地域の要請に協力します。**
- 3. 設計、舗装工事、土木工事事業に於いて、環境に与える影響を削減するために、次の事項に対して優先的に取り組みます。**
 - ① 化石燃料、電気使用量の節減による二酸化炭素排出量の削減**
 - ② 事業活動工程から排出される廃棄物のリサイクル推進**
 - ③ 節水活動による水使用量の削減**
 - ④ 事業活動で使用する用品は、環境負荷の少ない商品を積極的に使用するなど購入に努めます。**
 - ⑤ 工事事業においては、環境に配慮した施工計画を積極的に提案します。**
- 4. 環境保全に関する啓蒙・啓発と、地域での社会貢献活動に努めます。**
- 5. 人材不足や社員の高齢化が進む中で、若手社員の育成に努める。**

この環境経営方針は、当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2023年	7月	1日	改定
2019年	9月	1日	改定
2018年	7月	16日	改定
2011年	7月	16日	制定

有限会社 永崎建設
代表取締役社長 **永崎 健央**

3. 環境経営目標

2019年度～2021年度実績平均を基準年・基準値として2022年度～2024年度の中期〔3ケ年〕の目標値を設定しています。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実施区	年 度 別 環 境 目 標			
			基準値 (2019年8月～ 2022年7月)平均	2022年度 (2022年8月～ 2023年7月)	2023年度 (2023年8月～ 2024年7月)	2024年度 (2024年8月～ 2025年7月)
省エネ ルギー 項目	1. 二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	事務所	5,262.4	5,209.7	5,183.4	5,157.1
		現場	89,630.6	88,734.2	88,286.0	87,838.0
		全社	94,893.0	93,943.9	93,469.4	92,995.1
	①電気使用量の削減 (kWh)	削減率⇒		1.0	1.5	2.0
		事務所	10,963.3	10,853.6	10,798.8	10,744.0
	②ガソリン使用量の削減 (L)	削減率⇒		1.0	1.5	2.0
		現場	6,009.0	5,948.9	5,918.8	5,888.8
	③軽油使用量の削減 (L)	削減率⇒		1.0	1.5	2.0
		現場	29,337.1	29,043.7	28,897.0	28,750.4
	④建設副産物のリサイクル率向上(95%以上)	削減率⇒		1.0	1.5	2.0
		全社	239.5	237.1	235.9	234.7
物2 減の廃 削棄	①. 一般廃棄物の削減 (kg)	全社	239.5	237.1	235.9	234.7
	②. 建設副産物のリサイクル率向上(95%以上)	現場	100.0%	リサイクル率95%以上		
3. 水資源使用量の削減 (m ³)	削減率⇒		1.0	1.5	2.0	
	事務所	全社	516.6	511.4	508.9	506.3
		全社	516.6	511.4	508.9	506.3
益4 活 境 な ・ 環 有	①. 環境配慮型の取組推進	全社	環境経営計画の遵守	環境経営計画の遵守	環境経営計画の遵守	環境経営計画の遵守
	②. 環境ボランティア活動の取組推進	全社	5.7回/年	4回以上/年	4回以上/年	4回以上/年

*2021.9.1 改訂・2019～2021年度の実績平均を基準値として、第五次中期の目標を設定した。
 ・電力のCO₂排出係数は、2022.1.7公表の九州電力の調整後係数0.480を採用した。
 ・削減率は、新基準値設定に伴い、1.0% 1.5% 2.0%で取り組む。
 ・建設副産物のリサイクル率95%以上は、工事の種類等で仕様書通り廃棄を遵守しても達成しない場合もあります。

※化学物質(PRTR制度対象物質)の使用はありません。
 ※目標、実績の二酸化炭素排出量は、下記の係数に基づき設定した。〔排出量(kg-co2) = 使用量(A) × 排出係数(B)〕

	単位	使用量(A)	排出係数(B)	
購入電力	kWh		0.480	2022.1.7公表の九州電力の調整後を採用
ガソリン	L		2.32	2017年版の環境への負荷の自己
軽油	L		2.58	チェックの排出係数を採用

4.環境経営目標の実績

*2023年8月から2024年7月までの1年間の目標と実績は以下の通りです。

取組み項目		実施区	目標値	実績	達成率	年間評価
1.二酸化炭素排出量(kg-CO ₂)		全社	93,469.4	92,160.3	101.4%	○
ギ省 ーエ 項ネ 目ル	①電気使用量の削減 (kWh)	事務所	10,798.8	11,002.0	98.2%	×
	②ガソリン使用量の削減 (L)	現場	5,918.8	6,964.1	85.0%	×
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	28,897.0	27,411.8	105.4%	○
物2 の・ 削廃 減棄	①一般廃棄物の削減 (kg)	全社	235.9	245.6	96.1%	×
	②建設副産物のリサイクル率向上(%)	現場	リサイクル率95%以上	リサイクル率100% (総排出量1780.8 t)	105.3%	○
3. 水資源使用量の削減 (m ³)		全社	508.9	511.0	99.6%	×
環4 境 な ・ 活 益	①環境配慮型製品・サービスの提供	全社	環境経営計画の遵守	遵守しています	-	○
	②環境ボランティア活動の取組推進	全社	4回以上/年	6	150.0%	○

* 現場の電気と事務所の灯油と液化石油ガス(LPG)を含む総排出量 97,346.83

5.環境経営計画と取組結果、並びに評価

当年度の環境経営計画		取組結果と評価	
取組項目	活動内容	取組結果	評価
・電気使用量の削減 (事務所)	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	・不在箇所や昼休みの消灯に於いては、社員の認知も高く実践できている。 ・従業員の人数も増え事務所での作業も多くなり未達成もあったが、温度管理を行ったり外出時等の電気、パソコン電源オフ設定も意識してほぼ実践されている。	○
	②空調温度管理(設定温度遵守)		○
	③パソコンのオート電源オフ設定		○
・ガソリン使用量の削減 (現場)	①エコドライブの徹底	・エコドライブや現場への相乗りは徹底しているが、現場の状況によっては相乗りが出来ない事もある。	○
	②効率の良い配車・相乗りの推進		○
・軽油使用量の削減 (現場)	①エコドライブの徹底	・重機の定期点検は始業前に必ず実施している。現場への相乗りも行い、軽油削減に努めたが工事件数増加で重機・車輛の使用も増えたため未達成もあった。	○
	②重機の定期点検整備の実施		○
	③効率の良い配車・相乗りの推進		○
・一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録	・発生した廃棄物は必ず再資源化となるように分別し、結果は計量している。 ・ペーパーレス化の推進やコピー用紙の裏紙利用等、事務所の用紙使用量を削減している。 ・資材の梱包材の発生はなかった。	○
	②コピー用紙などの節減		○
	③資材梱包材の業者持帰り依頼		○
・建設副産物のリサイクル率の向上	①リサイクルの為の分別	・現場で発生する廃棄物はリサイクルできる業者と処分契約し、その結果はマニフェストで確認している。	○
	②廃棄はリサイクル業者へ依頼		○
	③マニフェストによる処分量の確認		○
・水資源使用量の削減 (事務所)	①節水シールの表示による意識高揚	・節水シールを貼付して節水意識の高揚を図り、又毎月蛇口を全閉してメーターの動きを確認して漏水点検を実施している。	○
	②定期的な漏水点検		○
・環境配慮型製品・サービスの提供(全社)	①環境配慮型資材の調査・購入	・環境配慮型資材の調査は、ネットや協会情報などで常に確認している。又、低騒音・排ガス規制の重機等なるべく使用している。	○
	②現場での環境配慮型工法の提案・実施		○
	③環境配慮型の建設機械を使用する		○
	④しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組んでいる		○
・環境ボランティア活動の取組推進 (全社)	①事務所周辺、現場周辺の清掃活動	参加できる環境ボランティア活動へ積極的に参加した。	○
	②地域の環境ボランティア活動への参加		○

*活動期間は、2023年8月1日～2024年7月31日です。

6.次年度の環境経営目標及び環境経営計画

次年度(2024年度)の環境経営目標と環境経営計画は、下記の通りです。

次年度の環境経営計画			次年度の目標
取組項目	活動内容	責任者	
★二酸化炭素排出量の削減	①下記、省エネルギー項目【電気使用量の削減、ガソリン使用量の削減、軽油使用量の削減】の推進	EA21 責任者	当レポートの5ページの3.環境経営目標に掲載しています。
・電気使用量の削減	①不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	総務部門	
	②空調温度管理（設定温度遵守）		
	③パソコンのオート電源オフ設定		
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底	土木部	
	②効率の良い配車・相乗りの推進		
・軽油使用量の削減	①エコドライブの徹底	土木部	
	②重機の定期点検整備の実施		
	③効率の良い配車・相乗りの推進		
・一般廃棄物の削減	①廃棄物の分別計量と記録	全部門	
	②コピー用紙などの節減		
	③資材梱包材の業者持帰り依頼		
・建設副産物のリサイクル向上	①リサイクルの為の分別	土木部	
	②廃棄はリサイクル業者へ依頼		
	③マニフェストによる処分量の確認		
・水資源使用量の削減	①節水シールの表示による意識高揚	総務部門	
	②定期的な漏水点検		
・環境配慮型製品・サービスの提供	①環境配慮型資材の調査・購入	土木部	
	②現場での環境配慮型工法の提案・実施		
	③環境配慮型の建設機械を使用する		
	④しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組んでいる		
・環境ボランティア活動の取組推進	①事務所周辺、現場周辺の清掃活動	総務部 土木部	
	②地域の環境ボランティア活動への参加		

*活動期間は、2023年8月1日～2024年7月31日です。

特記、・2024年度は、2023年度の環境経営計画を継続します。

但し、途中で不具合が生じたら、期間の途中でも活動内容を見直すこともあります。

7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業に係る環境関連法規は、担当者が定期的に環境省ホームページ環境基準・法令を確認しています。尚、関連法規制の遵守状況確認を、年4回実施した結果、違反はありませんでした。また、関係当局からの指摘、及び地域住民からの訴訟もありませんでした。現場での遵守状況は、安全パトロール中や安全会議時などで確認しています

〔当社の主な環境関連法規と遵守状況は下記の通りです。〕

主な関連法規名	遵守事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法(廃掃法)	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
再生資源利用省令	・再資源利用計画書・実施書の作成 ・再資源利用促進計画書・実施書の作成	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再資源化により得られる資材の使用	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (建設機械搭載のエアコンを含む)	遵守
	・解体工事における解体前フロン類機器設置有無の確認、発注者への書面説明 ・第1種フロン類充填回収者への引き渡し	該当なし
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	遵守 該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	遵守 該当工事なし

8.代表者による全体評価と見直しの結果

評価項目	代表者による評価と指示〔○当年度の評価、●次年度への指示〕
①環境経営計画の実施状況 及び 環境経営目標の達成状況	○環境経営計画の実施状況は、環境経営計画(兼)実施状況表によるとほぼ実施されることを確認した。昨年同様排ガス・低騒音の機械を使用し工事することにより現場周辺への環境配慮に努めることができた。 ●次年度(2024年度)も環境に配慮した工事を施工実施していきたい。 ○環境経営目標の達成状況は、環境経営目標達成状況管理表によると、今年度も電気と軽油の使用量未達が多かった。経営における課題であった若年者採用で現場事務員を採用した。それに伴い、残業が減るなど働きやすい環境を作るとともに、電気の使用量を減らす、継続して空調管理を徹底するなどして目標達成していきたいと思う。 ●次年度(2024)は、第五次中期で設定した環境経営目標と環境経営計画を全従業員へ周知徹底を行い出来れば全項目で目標達成となるように努めること。
②環境関連法規等の遵守状況	○環境法規制取り纏め(兼)順守チェックリストで確認した、当社に関連する法規等を全て遵守しており、問題は無いと判断する。 ●次年度も情報収集に努め必要な法規制を取り纏め、継続遵守で業務すること。
③外部からの環境に関する 苦情や要望等	○当年度も工事現場では周辺地区とのコミュニケーションに努めており、苦情、クレームも無かった。今年度はボランティア活動も積極的に行った。 ●次年度も苦情・クレームが発生したら関係者で速やかに対処していただきたい。
④環境経営方針	○ ●特に不具合がなかったので、次年度も現行の方針を継続する。
⑥実施体制	○ ●特に不具合は無かったので、次年度も現行の実施体制を続行する。
⑤環境経営システム (その他全般)	特になし